

<安全上のご注意>

取り付けに際しまして、工具等をご使用の際には怪我などに十分ご注意ください。
当商品には鋭利な箇所が部分的にあります。取り扱いには十分ご注意ください。
交換作業は全て自己責任にてお願い致します。作業中・作業後の生じる事故・損害において、弊社では一切の責任を負いかねます。

この度は弊社製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございました。
当品の持つクオリティを最大限活かすためにも、是非このマニュアルをご熟読のうえで作業なさるよう宜しくお願い致します。

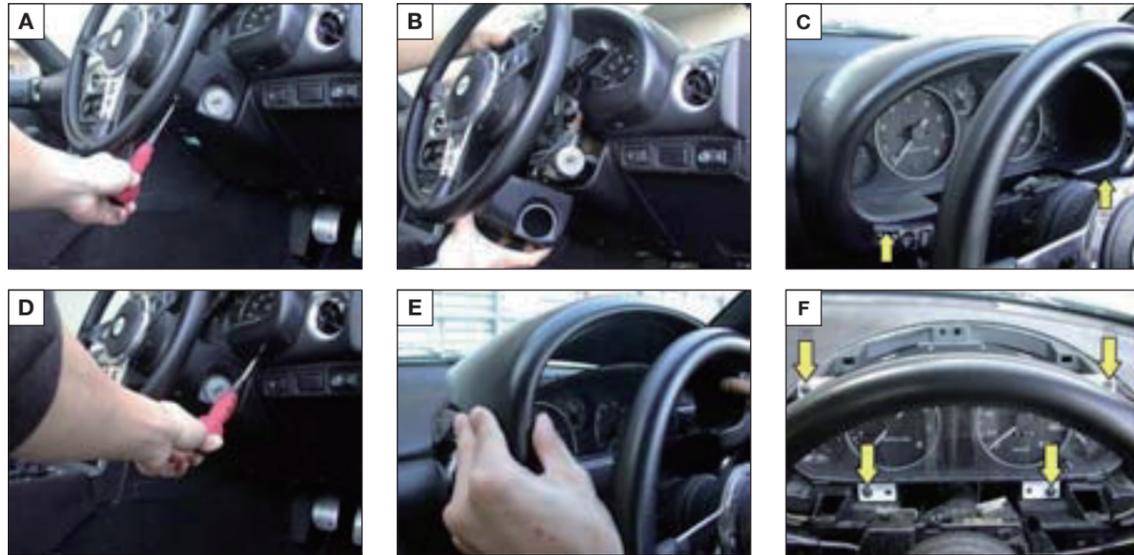
使用上の注意

取り付けの際、または室内清掃などの際にガラス面の汚れを拭き取る場合、奥側に強く押さないようにご注意ください。
ガラスが割れてしまったり、リング部分との接着が剥がれる恐れがあります。

準備するもの

プラスドライバー マイナスドライバー アクリルカッター ドリル(3mm・4mm)

- 以下の手順に沿って、メーターユニットを車体から取り外します。
 - ・ステアリング背面にあるコラムカバーを外します。→コラムカバー下面にある4本のビスを外し(写真A)、上下に分割して外します(写真B)。
 - ・メーターフードを外します。→フード下側の2ヶ所のビス(写真C・D)を外し、フードを両手で持って手前に引き抜きます(写真E)。
 - ・メーターユニットを固定している4本のビス(写真F)を外します。



- ケーブル、コネクタを以下の手順で抜きます。
 - ・まず、写真G~Iで、メーターユニット裏側の構造を理解します。→コネクタ1とコネクタ2、および車速ケーブルと、リア熱線作動灯コネクタ(NA初期型には未装備)を確認。



- ・写真J~Lを参照し、コネクタ1・2と熱線作動灯コネクタを外します。→熱線作動灯コネクタ(写真J)は、スポンジの中にコネクタ離脱用ツメがあります。



- ・写真M・Nで車速ケーブル接続部周辺の構造を理解します。→運転席からは直接見えない部分なので手探りの作業(写真O)となりますが、構造が理解できていれば簡単に着脱可能です！フック(写真N)を押すとロックが外れ、メーターユニットごと手前に外れます。



・メーターユニットが車体から取り外されました。室内での作業に移ります！

- メーターの透明アクリルカバーを開け、表示盤を交換します。指紋等汚れの付着を防止するため、一度きれいに手を洗っておくとよいでしょう。
 - ・透明アクリルカバーを留めているツメをマイナスドライバー等で押さえ、ユニット本体から取り外します(写真P・Q)。



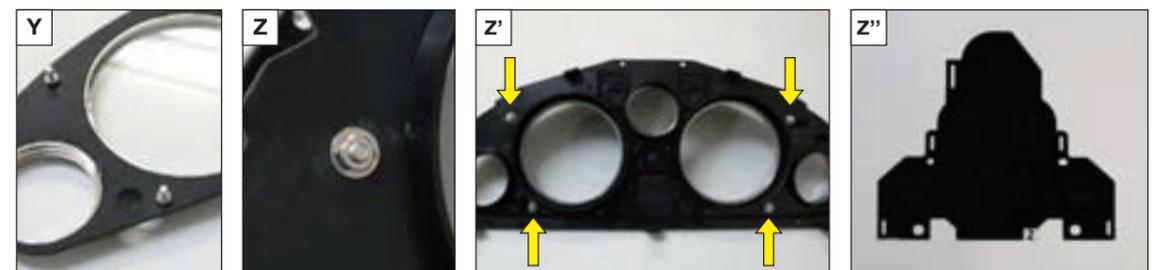
- メーターカバーに接着されている透明アクリルカバーを、アクリルカッター(写真R)を用いて分離します。
 - ・透明カバーの接合部に沿って(黒ケースに沿って)、アクリルカッターでスジ(溝)を入れていきます(写真S)。力を入れる必要はありません。軽くなぞるような感覚でOK。
 - ・だいたい20~30週ぐらい繰り返して、溝が約9割程度まで達したところでひねる(写真T)と簡単に、しかもきれいに分離することができます(写真U)。



- 純正のクロームリング(2ヶ)を剥がします(リングが付いている車輛の場合)。
- 中央下部のスモークパネルを外します(写真V)。前面より押し込むことで簡単に外れます。同じ要領で、ウインカー部分のグリーンのアクリルも外します。
- ピンテージメーターパネル本体を純正パネルに合わせ、4ヶ所のボルト用穴部分に鉛筆などでマーキングを入れます(写真W)。
- マーキングした部分を中心に、3~4mmの穴を開けます(写真X)。



- 穴を開け終わったら、ピンテージメーターパネル本体にボルトを通し、ナットでボルトを固定します(塗膜を傷めないよう締めすぎに注意!)。
 - (このナットは、純正パネルとのクリアランスを保つスペーサーの役割を持ちます)(写真Y)。
- 4ヶ所とも固定できたら、純正パネルにセットし、裏側よりワッシャーとナットを用いて固定します(写真Z・Z')。
- 各警告灯の発光干渉(光漏れ)が気になる場合は、写真の純正アイコンパネルに穴を開けて干渉を防ぐことが出来ます。この場合、ピンテージメーターパネルの各パイロットランプの中心位置におよそ3mm程度の穴を開けてください(写真Z'')。



<各警告灯用バルブの着色処理について>

スモークレンズ仕様をご選択の場合、パイロットランプのレンズ部分が無色となりますので、純正同様にウインカー部分を「緑」、その他警告灯類を「赤」、ハイビーム灯を「青」に発光させる場合には、該当部分のバルブを着色して頂く必要があります。
油性カラーマジックか、ホビー用クリアカラーを用いて着色して下さい。